

外国人高齢者と介護の橋渡しプロジェクト

日本人も外国人も安心して老後を暮らせる地域社会を目指して

—外国人と介護制度をつなぐ3つの試み—

トヨタ財団 2014 年度国内助成プログラムによる 2015 年度・2016 年度のプロジェクト

外国人の高齢化が今後も進んでいくことが予想されるが、そのための施策は行政においてはまだとられておらず、介護施設においては受入体制が整っていない。また、介護制度に外国人がアクセスできていない状況の中、介護を始めとする外国人の高齢化に対する課題に早急に取り組んでいかなければならない。

そこで、当プロジェクトは、外国人と介護制度をつなぐため、以下の3つの試みを行う。

①介護通訳者の養成・派遣

介護通訳利用者は名古屋市内の外国人住民、行政及び介護施設職員等。一定レベル以上の語学レベルを持った者(国籍は問わない)を介護通訳者として養成する。

地域の介護施設等の協力を得て、養成した通訳者を試験的に介護施設へ派遣する(2年目に実施)。

②外国人への介護制度周知等の働きかけ、地域包括センターでの家族教室や家族サロンへの参加促進

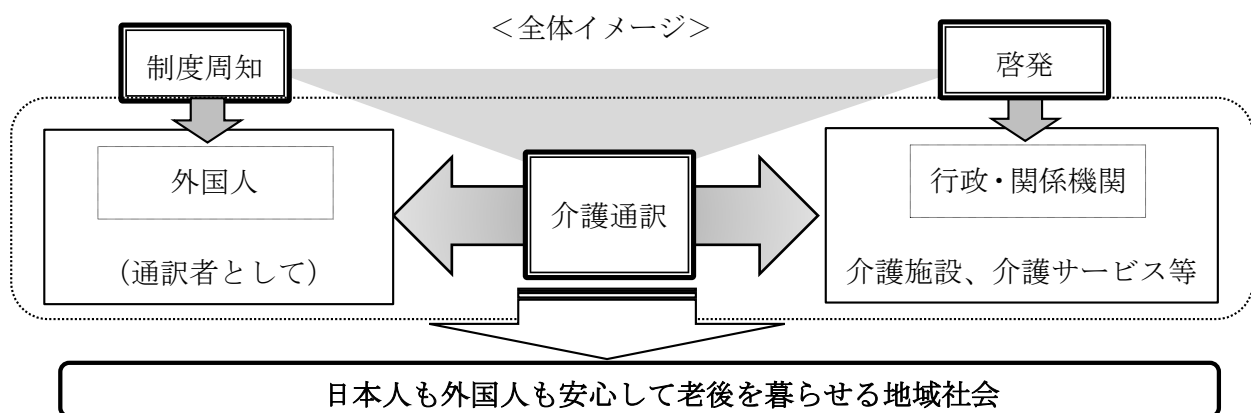
地域の日本語教室等に出向き、外国人向けに介護保険制度の説明を行うとともに、介護に関するアンケートを行う。

また、社会福祉協議会等と連携し、現に介護をしている人を対象に、地域包括センターで行われる家族教室や家族サロンを紹介し、必要に応じて通訳を派遣する。

③行政・関係機関等に対する外国人の介護問題に関する啓発活動

名古屋市内の行政・福祉関係者を含む一般市民等を対象に、在日コリアン、中国帰国者だけでなく、日系ブラジル人等も交え、在日外国人の介護の現状と課題等について、学識者・介護実務者・当事者による報告等を行い、在日外国人の介護に対する認識を高めてもらう。

※①は当面は中国語を対象とし、②③については国籍を問わない。



このプロジェクトは、介護制度の周知や外国人の介護問題の啓発等を行っていくが、そのために地域の介護施設を始めとする介護サービス事業者や日本語教室との連携を図っていく。また、名古屋市内にいる多くの外国人を支援する側の資源として活かし、外国人の高齢化という地域課題の解決につながる「介護通訳」という仕事の創出を行い、そのための人材の育成を行うことにより、日本人も外国人も安心して老後を暮らせる地域社会を目指す。